

2016年3月実績概要（メモ）

（2016. 4. 21）

春定修の本格化から、石化製品の生産は多数が前月及び前年を下回る。

1. 生産動向

イ) エチレン 526,600トン

前月比 ▲ 2.0% (▲10,700トン)

前年同月比 ▲10.6% (▲62,200トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+ 6.9 %	-
定修要因等	▲ 5.7 %	▲ 3.2 %
能力増減	▲ 4.0 %	▲ 12.2 %
稼働率変動	+ 0.8 %	+ 4.8 %
生産増減率	▲ 2.0 %	▲ 10.6 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月94.5%→当月95.2%←前年同月90.9%

定修プラント：前月なし→当月1社1プラント←前年同月なし

平成27年度(会計年度)エチレン生産量 6,781.5千トン 前年度比+1.4%

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、本格的な定修時期に入ったこともあり、稼働日数が増加したもののHD、PS、SM、塩ビ樹脂、AN、SBR、BRなどの12品目でマイナス。塩ビモノマー、トルエン、キシレンなどの5品目はプラスとなった。

前年比では、定修規模差と稼働率要因等からHD、PS、SM、塩ビ樹脂、EO、EG、AN、SBR、BRなどの12品目でマイナス。LD、MMAモノマー、キシレンなどの5品目はプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LD、HD、PP、PS）

イ) 生産

前月比では、日数増があったが、定修規模が増加したHD、PP、PSではマイナスとなった。LDは、日数増と定修規模差等がほぼ相殺し前月並みの生産となった。

前年比では、稼働率要因等からLDのみがプラス、PPは微減、HD、PSは定修規模差等からマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比は、主に営業日数の増加が寄与しLD、HD、PP、PSの4樹脂揃ってプラスとなった。

前年比では、LDでは引き続きフィルム用途を中心に全般的に出荷が増加しているほか、PSにおいてもほとんどの出荷分野で出荷が増加している。このほかPPでもフィルム分野、射出成形分野等の出荷が前年を上回りLD、PP、PSの3樹脂でプラスとなった。

ハ) 輸出

前月比では、HD、PPの前月の輸出が低めであったこともあり、当月はPSを含めて3樹脂でプラスとなった。これに対して前年比では国内出荷との兼ねいや為替変動もありLD、HD、PPでは大幅なマイナスとなっている。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、HD、PP、PSの4樹脂で減少した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLD、HD、PPでやや上昇、PSは前月並みとなった。在庫水準としては、LD、HD、PP、PSともいずれも高めとなっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		2月末	3月末
LD	▲24,000	2.8	2.9
HD	▲15,000	3.1	3.4
PP	▲19,700	2.7	3.0
PS	▲6,700	1.8	1.8

以上